

建築士 こおりやま

2016 1月 No. 55

新年～新しい出会いの始まり～



「絶好調！ 真冬の恋
スピードに乗って～
急上昇！ 熱いハート
とけるほど恋した～い
私だけに

White Love Song

歌ってほしいの～」

ゲレンデがとけるほど
恋したい

作詞：広瀬 香美

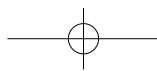
作曲：広瀬 香美

唄：広瀬 香美

目 次

- ◇全国大会（金沢）参加の御礼
松 隈 仁 吉 2
- ◇感 謝 堀 井 勝 典 3
- ◇第58回 建築士全国大会石川大会に参加して
土 屋 彩 子 4～5
- ◇大工道具の仕込み 監編 酒 巻 正 弥 6
- ◇わたしが建築を目指した理由 7
村 上 一 信 ・ 鈴 木 聡
大川原 大 樹
- ◇建築士会全国大会 石川大会 8





全国大会（金沢）参加の御礼

公益社団法人福島県建築士会 会長 松隈仁吉



片道450km、往復900km。建築士会全国大会 金沢大会に郡山支部22名参加、大変御苦勞様でした。近年、郡山支部の研修会は私の会長職につき合っていて、毎年の全国大会に参加して頂いております。

今回は北陸新幹線の開通記念となり石川県大会（金沢）となりました。

昨年の福島大会（郡山）のお礼参りもあり、県内各支部より161名参加と全国最多の参加人数となりました。心より感謝申し上げます。

又 郡山支部は先にも申し上げましたが、片道450kmをバスにて参加して頂きました。さぞお酒の量もはかどった事と思っています。

私は前日、会長会議が有るので往路は北陸新幹線にて金沢へ向かいました。とは言え支部皆様の出発時間より3時間半あとに郡山駅を出発し、金沢には午後1時に到着しました。北陸新幹線には初めての乗車です。窓からの景色も東北新幹線とは違い、北アルプスの山並み、トンネルの長さ、畑の色の違い（後から解ったのですが、野沢菜でした。）を見ているうちに、アツと言う間に金沢に着いた感じです。

午後3時からのANAクラウンホテルにて会長会議も無事終わり、その後東北ブロックの会長6人と北海道ブロックの会長と計7人で予約していた料亭にて楽しい酒宴も終わり（今回の大会では会長会議の後の懇親会は無いため）ホテルに帰り、静かに眠りについたのです。

郡山支部の諸君が楽しい夜を雨晴温泉で過ごしている時間には、私は寂しくホテルで寝ておりました。

翌日午前中、市内の観光地と大会会場を見学し、午後の支部到着を待ち記念講演会場にて合流致しました。

そして大会式典、大懇親会も無事に終わり、支部主催の飲み会へと移り楽しいお酒と楽しい時間が過ぎて行き、解散となり各々街へと消えて行ったのです。

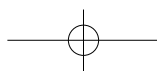
今大会は質素を心掛けた大会運営を石川士会が心がけたようで、ちょっと盛り上がりには乏しい感じがしたのは私だけだったのでしょうか？

そして翌日、金沢市内を観光して、バスにて帰路（450km）。

車内はアルコールの匂いが漂う中、夜9時過ぎに郡山に着いたのです。皆さん本当に、御苦勞様でした。感謝申し上げます。

来年の全国大会は大分士会の主管で別府大会が10月21、22日に開催されます。

バスにて大勢で出かけようではありませんか！



感 謝

公益社団法人福島県建築士会 郡山支部 支部長 堀 井 勝 典



昨年開催の全国大会（福島大会）が終わり、早や一年が過ぎました。

今年は「少しゆったりしたいなあ」と思っておりましたが、やはり、やる事をやらないと気が落ち着かないと言う事で、例年通り、会員親睦ゴルフ大会、真夏の暑い最中の東京研修、そして遠路はるばるバスで参加した建築士会全国大会（石川大会）等、様々な行事をこなして参りました。

また、支部の今年最後の研修会も「ふくしま建築住宅センター 県中事務所」様より講師をお迎えして11月の末に開催され、多くの会員、非会員の皆様に参加頂きました。特に非会員の皆様には、建築士会への入会を呼びかけたところです。

会員の皆様、今年も様々な行事、活動にご協力頂きましてありがとうございました。

建築士会は、建築の技術向上、見識の探求、地域に密着した良好な建物と街づくりの推進等、多様な活動をしています。とかく疎遠になりがちな建築士間の交流も重要な目的のひとつです。

2011年の大災害に伴い発生した除染作業監理業務も、建築士に与えられた社会貢献と責務の一環と思います。多忙を極める自身の業務の傍ら、除染の監理業務に携わって頂いた皆様にも、心より感謝申し上げます。間もなくこの業務も終了しますので、もう少し頑張ってください様、心からお願い致します。

さて、皆様のご協力を頂いて、今年一年も無事過ごす事ができました。

また来年もご協力の程よろしく願いいたします。 会員の増加を皆様と共に呼びかけながら、有意義で濃密な一年に致しましょう！

ありがとうございました。



第58回 建築士全国大会石川大会に参加して

侑柘設計 土屋彩子

大会式典、記念講演、大交流会に参加した。

建築士会は現在「歴史的・文化的建築物の保存・継承、ヘリテージマネージャーの育成」「施工分野の人材育成・技術向上のための 監理技術者講習」の二つの大きな事業に取り組んでいる。一つめの事業のお手本である金沢で「未来につなぐまちづくり」をテーマに行われた。

記念講演では5期金沢市長を務めた前市長の「伝統とまちづくり」を聞き、金沢のまちづくりの歴史や取り組みについて学んだ。又、まちづくりと共に人を育て、内だけではなく外へ向かう姿勢に感銘を受けた。

大交流会は、無形文化財の指定を受けている金沢素囃子によって開幕された。金沢芸妓衆が二段の舞台にずらりと並び三味線・笛・太鼓の演奏があり、盛大に行われた。



石川県では、ミュゼふくおかカメラ館、氷見市海浜植物園、金沢駅前もてなしドーム、兼六園、金沢城公園、近江町市場、尾山神社、東茶屋街等を見学・散策した。

その中でも印象にのこる「兼六園」「21世紀美術館」「東茶屋街」この3ヵ所をあげる。



文化財指定庭園 特別名勝「兼六園」は、海外から集団で来た観光客で、ごったがえしていて、聞いたこともない言語があちらこちらから飛び交っていた。



まるで海外旅行でもしている様。しかし虹橋と名のついた石橋に立つと、灯籠の先に水鳥が池を泳ぐ。遠くに木造建築物が浮かんで見え、不思議と静かな気分になった。時折、金沢特有の小雨が降って、水面に水玉が浮き出しては消え情緒ある風景を見せてくれた。「人工」のものと「自然」相反するものが共鳴して、五感を刺激する。長い時間が経った今も賞賛されているのは、あたりまえだと体感できた瞬間だった。



一番楽しみにしていた21世紀美術館（設計：SANA A）もまた、人で賑わっていた。設計主旨は「まちに開かれた公園のような美術館」。円形の平面構成と透明ガラスだけの外壁が、それを強調していると感じた。外部オブジェも天候や日時によって表情を変える為何度でも来たいと思った。又、内部の細い丸柱・ガラスのエレベーター・加賀友禅を模した外壁やイス等、インテリアまでもが、見る人・使う人の好奇心を惹きつけている。

東茶屋街で中央に位置する一番町も大勢の人が買い物や見学を楽しんでいた。

石畳の道、軒を連ねた木造建築物、一文字瓦、縦格子、凜とした佇まいがあった。

お茶屋だった当時の面影をそのまま残している国指定重要文化財「志摩」に立ち寄り、当時の若旦那の気分を少し味わった。その他、金沢の特産物を販売する店が並んでいたが、目立たない表札だけで、派手な看板が無い。通りからは一見して何を売っている店か解らないため、ドアを引いて入っていく時が、わくわくした。立ち寄らなかった店は、どんな物があったのだろうか。そんな所も、またこの町に来たいと思う要因の一つだ。

金沢は、歴史的建造物から現代建築物まで見所が満載で、前市長が講演されたとおり「伝統と革新」のまちだった。やはり加賀百万石。江戸時代からの歴史と文化を引き継いできた人達が、現在も「まち」を創造し進化させている。



移動中、郡山支部の歴史や主旨について教わった。又、地域貢献を目的として除染の管理監督を行っていること。会員減少対策に、実務に密着した講習会の実施を予定していること。会員を医師や税理士のように強制加入にすると良いのではないかという意見等。

先輩方から様々なお話を聞くことができ、とても勉強になった。

来年の全国大会は別府温泉のある大分県で開催される。

大工道具の仕込み 鑿編

福島県立テクノアカデミー郡山 酒巻正弥



1. はじめに

今年度、建築士会会報『建築士』CPD講座において『大工道具とものづくりの心』と称して竹中大工道具館 館長 赤尾建藏氏が 我が国の大工道具の歴史について寄稿されています。特に8月は鑿（のみ）、9月は鉋（かんな）についての説明であり、楽しく読ませていただきました。ところでこの記述の中で、鑿・鉋について実際に使用するまでの仕込みについての説明がされていません。鑿も鉋も買ってきた状態では使えません。普段、鑿と鉋を使用している大工であれば当たり前のことですが、意外と知られていない仕込み方について、今回は鑿を中心に話をしてみたいと思います。

2. 鑿の仕込み



写真1 叩き鑿(左)大入れ鑿(右) 図2 鑿の構造

鑿には多くの種類がありますが、私は学生に叩き（たたき）鑿と大入れ鑿の二種類を使わせています。この二種類は長さが違います。（写真1）叩き鑿は、ほぞ穴等を加工する際に玄翁（げんのう）でガンガン叩いて使います。これに対して大入れ鑿は叩きのみである程度加工した後の仕上げに使います（玄翁でたたいたり手で突いたりします）。（図2）鑿の構造は共通しています。



写真3 冠仕込み



写真4 裏押し



写真5 研ぎ

まず束（つか）から冠（かつら）をはずして冠の

裏を棒やすりで削り、再び束にはめ込み冠から束を4～5mm出して玄翁で冠より出た束の部分を叩いてつぶします。これを冠仕込み（かつらじこみ）と言います。（写真3）これは束の割れ防止になります。次に裏面を金盤の上で、金剛砂や中砥石の粉末を利用して上から押しつけながら平らに研ぎます。これによって切削材面に当たる部分が平らになり、綺麗に切削できるようになります。学生には裏透（うらすき）から刃先までの長さを5mmほど平らになるように（これを裏を出すと言います）押させています。初めて行くと大抵筋肉痛になります。（写真4 実際細い鑿以外は押棒をあてて押します）

最後に表面の刃先を、中砥石で刃返りが出るまで研ぎ、刃返りが出たら仕上げ砥石で研ぎあげ、刃返りを落とします。切れる刃物は刃こぼれがないことがポイントですが、専用の顕微鏡で見ると、実際はものすごく細かいのこぎりの先のようになっています。もちろん肉眼で見れば平に見えます。研ぐ角度は叩き鑿の場合、30度未満程度。大入れ鑿は叩き鑿より鋭角に研いでいます。刃先の角度を鋭角にすればするほど切れませんが刃先が薄くなりもろくなります。私自身は30度から22度程度まで使用する用途に応じて角度を使い分けて研いでいます。（写真5・6）こうして仕上がった鑿に油を塗って完成です。



写真6

一度加工すれば切れ味が悪くなりますので使用後、刃先は常に砥石で研いでいます。数回砥げば裏もなくなりますので、裏押しも行います。

3. 研ぎの技術

簡単に研ぐと言いましたが、これが意外と難しいものです。砥石上で刃先の角度を一定に前後に往復運動させるため、慣れていないと刃が丸くなり、片刃になってしまいます。鑿は刃先の角で直行する木材の繊維を断ち切って加工をするため、耳と言われる部分が命なのですが、この部分を削りすぎて丸くしてしまったり、私も三日に一回は研ぎものをしていましたが大工の世界で『研ぎ一生』と言われるくらい日々の精進と継続が必要です。鑿って奥が大変深いんです。機会があれば、さらに奥の深い鉋の仕込みについてもお話できればと思います。

◇ わたしが建築を目指した理由 ◇

建築士会の皆様も建築という職業を選択したときにいろいろな夢があったと思います。
今回も、各界でご活躍されています各会員の皆様に、私が建築という職業を選択した理由をお聞きしました。

村上 一信

(株)村上設計事務所



私は終戦近い昭和17年にここ郡山に生まれました。幼少の頃の記憶はあまりありませんが、食べる物がなく、生活が困窮していたと大人になってから両親に聞かされました。その様な時代に、私の父は建築関係の仕事をしていました。貧しくても力強い父の仕事を感じ育った私は、ごく自然に建築の道に進むことを決めていた様に思います。中学卒業後、地元工業高校の建築科に入学したものの、中々に建築の学業は難しく、大変苦勞したことを覚えています。いつしか学業よりもクラブ活動の弓道に熱が入り、3年の春には高体連に出場したのは良い思い出となっています。無事に高校を卒業してからは、オリンピックで建築ブームの東京の建設会社で現場監督の仕事に就き、日焼けと埃で真っ黒になりながら建築の技術を学びました。それから数年経ち、長男であった為地元郡山に帰省致しました。地元では設計事務所に入社しましたが、慣れない定規と鉛筆にまた苦勞する日々が続きました。図面が綺麗に引けず、所長に何度も注意されました。そんな私も一人前に仕事が出来るようになった昭和45年、一級建築士を取得致しました。資格を取ってから自分に自信が付き、30歳で独立を致しました。しかし、資格があればすぐに仕事が出来る程甘い世界ではなく、毎日の様に酒を飲んで営業しておりました。小さな住宅から始まった仕事も、段々と共同住宅や貸しビルの仕事を任されるようになり、職員も増えて公共工事の設計まで出来る設計事務所に成長致しました。偏に応援して下さいました方々、頑張ってくれた職員、支えてくれた家族のお陰だと思っております。

昨今は建築も多様となり、特性のあるものが増えて参りました。私が若い頃に手がけた建物は年月が経過し、解体されるものもあり切なく思いますが、新しい若い力を目の当たりに出来る嬉しさも感じております。だいぶ高齢にはなってきましたが、健康である限り仕事を続けて参りたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

鈴木 聡

(株)建設相互測地社



なぜ私が建築に携わっているかを今顧みれば、次のことが思い起こされます。

『カンナ屑』：小学校入学前のことだと記憶しています。天気の良い日、縁側の前の庭で家の修繕に来ていた大工さんが角材にカンナをかけているのを眺めてました。大工さんは、自分の腕を自慢するように私に削ったカンナ屑を見せ、そのカンナ屑の薄さ、木の香、仕上がりに感動、大工さん（建築）に憧れた記憶があります。

『ポール・ニューマン』：小学校高学年の頃、映画好きの父親と良く映画館へ行きました。多分「わが緑の大地」という映画だと思います。ポール・ニューマンが建築士の役を演じ格好が良く、建築士という職業を初めて意識するようになり、小学校の卒業文集の将来の夢は「プロ野球選手」から「一級建築士」と変わりました。

その後、普通高校に進学、理系コースの三年生になった折、進路進学先を決める段に父親と相談。父は公務員で転勤族、宮仕えの苦勞からか資格を取ることの重要性と金銭的な理由で国立大学を息子に要求しました。

諦めの悪い性格から「一級建築士」を目指し、隣の国立大学に建築科が新設される偶然も重なり進学、卒業後東京のゼネコンで現場監督を3年勤めましたが、バブル全盛の頃、昼は現場管理、夜間休日は施工図書きと勉強時間が持てず、夢を実現すべく帰郷、現在の会社へ就職、会社の理解を得て資格を取得、今に至っております。

大川原 大樹

(有)テクノス



建築を目指した理由を結論から言うと、父の影響が大きいと思います。小さい頃から父の事務所に入り浸り、ドラフターを使って図面を書いている姿が格好いいなと思っていました。現場によく連れていかれ、上棟式の時の建前で、餅と小銭を必死で集めてたのを今でも覚えています。その場の雰囲気や木材の香りがたまらなく好きだったのか、キャッキャッとテンションが上がっていました。

その思い出も、中学校、高校と年を重ねるごとに忘れていき、ただ漠然と毎日過ごしていた高校三年生の時、先生から『お前は将来何になりたいんだ?』と聞かれ、返答に困り、それから自分のなりたて姿を想像しながら学校から家に帰っている途中、たまたま新築で建てている住宅があり、その時に自分の中で『あっ！これだ！』と思い建築への道を進むことに決めました。

大学に進学し勉強をしていく過程で、建物の色々な見方や考え方が変わっていき、今では当たり前知っている様な事でも、ひとつひとつの意味や理由があることに感動しました。いままでも、これからも、建築を学んでいく楽しみを感じながら、建築士としての責任と自覚を持ち、微力ながら社会に貢献できる様に日々前進していきたいと思っております。

建築士会全国大会 石川大会

2015. 10. 29~2015. 10. 31



編集後記

バスに揺られながら長時間の強行軍となった建築士会全国大会 石川大会も無事終了した。

前田家の栄華に包まれた 文化の奥深さを改めて歴史の中に強い驚きを伴って感じ取れた。

講演会での元市長の金沢の楽しいお話と 外部に発信する営業力には心から感服した。

重苦しい時の流れと風習に縛られながら 過去を守り続けるのは息苦しいと思っていたから。

この種の講演会でたびたび登場する著名な建築家の話より楽しかったのは 私だけかしら。

さて 私こと

目の中には 小さな黒い蚊がふわふわと踊っているし 耳の奥には ミンミンゼミ数匹が季節を問わずに いつも賑やかに鳴いている。

若かったときには お友達ではなかったはずなのに 今ではいつも どこへでも一緒。

夜中にトイレに行く回数も増えたし 摂取し続けたアルコールの為か記憶力はさっぱり。

今 建築士の試験を受けたらどうなるのかしら。人生の予定では 120才まで頑張るつもりだから

今は まだ人生の半ばを過ぎたばかり。

これからも 強い者にはめっぽう弱く 弱い者にはめっぽう強く 長いものにはぐるぐると巻かれて を座右の銘として 毎日 沢山のお酒と語りながら 残りの60年を過ごしていきます。

オミズ

(社)福島県建築士会郡山支部

郡山市方八町二丁目13番9号 TEL&FAX942-2816